

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 18 日作成)

委員会名	鋼構造変形限界設計小委員会	主 査 名：桑村 仁
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (鋼構造運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：小野徹郎
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	鋼構造建築物が、機能性、無損傷性、修復性、安全性のそれぞれの限界に達したときの構造躯体、非構造部材、建築設備の性能評価方法を、主として変形限界に着目して整理し、性能設計のガイドラインを提案する。2001 年度と 2002 年度は国内外における性能設計の調査、2003 年度は WG 活動、2004 年度はガイドラインのまとめを行う。	
委員構成 (委員名(所属))	桑村 仁(主査, 東京大学), 原田幸博(幹事, 千葉大学), 井戸田秀樹(名古屋工業大学), 内田保博(鹿児島大学), 笠井和彦(東京工業大学), 向野聡彦(日建設計), 小林紳也(小林構造研究室), 杉本浩一(大林組), 清家 剛(東京大学), 高橋良典(竹中工務店), 田中直樹(鹿島建設), 田中正博(竹中工務店), 藤村洋人(大建設計), 伊藤拓海(東京大学), 佐藤義也(日本設計)	
設置 WG (WG 名: 目的)	<u>構造躯体性能 WG</u> : 鋼構造建築物の構造躯体の性能評価法を検討する。 <u>非構造部材性能 WG</u> : 鋼構造建築物の非構造部材の性能評価法を検討する。 <u>建築設備性能 WG</u> : 鋼構造建築物に付帯する建築設備の性能評価法を検討する。	
2004 年度予算	500,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2004.5.25 (10 名, ガイドラインの執筆方針について審議), 2005.1.19 (10 名, 構造躯体性能 WG と非構造部材性能 WG から提出されたガイドライン原稿および性能設計例について審議), 2005.3.16 (9 名, すべての WG から集まったガイドライン原稿について審議)
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) ・2003 年度大会 PD 『鋼構造の性能設計を考える』で聴取した学会会員からの意見に基づき性能設計ガイドラインの枠組を固めた。 ・鋼構造建築物の性能設計ガイドライン作成に向けて、構造躯体、非構造部材、建築設備について性能評価方法の検討を各 WG において進めた。 ・各 WG の検討結果に基づいて、ガイドラインの執筆作業を進め、『鋼構造性能設計ガイドライン』を作成した。
	委員会 HP アドレス:
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) すべて達成された。 2005 年度に標記『鋼構造性能設計ガイドライン』を冊子にまとめ、シンポジウムを開催する計画である。
その他評価すべき事項	